

実践発表

「地域と学校の連携や協働」

真庭市立遷喬小学校

学校支援ボランティア

地域コーディネーター 大釜 尚美 氏

地域連携担当 水田 文子 氏

☆地域コーディネーターとして

- ・ボランティアの方が依頼を無理に引き受けたり、負担感を感じたりしないための「断りやすい雰囲気」づくり
- ・活動内容を地域と学校で共有するための発信
- ・児童に「憧れ」の気持ちが生まれる、地域の人材の知恵やスキルに触れる場づくり
- ・学校支援活動を通して生まれるボランティア同士のつながり

☆地域連携担当として

- ・ボランティアの方は「ともに児童の育ちにかかわる存在」
- ・職員や児童がボランティアの方に感謝の気持ちを伝える場づくり
- ・児童の安心・安全に関わる見守り活動、学習活動の充実、成功体験の積み上げ、コミュニケーション力の育成、専門的な指導を受ける機会等の教育効果
- ・引き継ぎ体制、教育効果を高めるための共通理解の場、児童が地域に出て活動する機会等をつくっていくことが課題



実践発表の様子



情報交換の様子

情報交換

テーマ「子どもの『現状』や『どのような子どもに育ててほしいか』等を学校と地域が共有するための工夫や取組」

- ・情報の発信と共有 ・児童、教員、地域ボランティアの顔合わせ会 ・研修会
- ・行政との連携 ・定期的な情報交流会 ・学校、地域それぞれの行事への参加
- ・顔写真入りの名札の活用 ・雑談の中での情報共有

講話

「現実的な学校と地域の連携推進のための方策」

香川大学 教育学部 准教授 大久保 智生 氏

●連携に必要なこと

- ・意義を理解し、互いにメリットのある関係づくりをすること
- ・地域の特性に合った連携をすること
- ・つながりや効果を目に見える形にすること

●連携のさらなる推進のために

- ・学校と地域のニーズのギャップを埋めるための共通理解の場づくり
- ・連携の成果のまとめの発信と意見や感想の受信
- ・コーディネーターの引き継ぎ体制づくり
- ・家庭や他の機関の協力



講話の様子

アンケートより

- ・学校と地域が直接話し合える場をつくり、互いの理解を深めることが必要だと感じた。
- ・学校と地域の連携において、「子どもの育ちのため」という視点がブレないようにすることが大切だと感じた。